

2018年（平成30年） 7月20日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

7/5~7/11のNYMEX・WTIは、70.38~74.11ドルの範囲で推移した。

7月12日は、前日のリビアの原油輸出再開の動きやドル高の進行で、わずかに値下がりした。ただ、IEA月報の原油増産余力が限界に近いとの発表やクッシングの原油在庫の減少報告が下値を支えた。8月限の終値は前日比0.05ドル安の70.33ドルだった。

週末13日は、ノルウェー沖合油田でのストライキ拡大やイラクの港湾でのサボタージュなどの報道、ドル安・ユーロ高への反転等により、反発した。ペカー・ヒューズ社発表の米国内石油掘削リグ稼働数が863基(前週比横ばい)だった。8月限の終値は前日比0.68ドル高の71.01ドルだった。

週明け16日は、13日の米国政府が原油価格抑制のため戦略石油備蓄(SPR)放出を検討中とのWSJ電子版報道、リビア国営石油の原油出荷再開発表、中国政府の18年第2四半期GDP速報で6.7%増と3期ぶり減速発表など、需給ひっ迫感の後退で大幅反落し、6月21日以来の安値を記録した。8月限の終値は前日比2.95ドル安の68.06ドルだった。

17日は、前日の流れを受けて、朝方売りが先行したが、売り一巡後は、当日夕、翌日の米国在庫取り崩し予想から買い戻しが優勢となり、わずかに反発した。8月限の終値は前日比0.02ドル高の68.08ドルとなった。

18日は、EIAの在庫週報で、原油が予想外の積み増しとなったものの、ガソリンと中間留分の在庫が予想外の取り崩しとなったこと、一部報道で、サウジのリアド製油所の襲撃情報が流れたことから続伸した。8月限の終値は前日比0.68ドル高の68.76ドルとなった。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(9月渡し)は、前週74.40~75.70ドルの範囲で推移した。7月12日72.40ドル、13日72.10ドル、17日70.00ドル、18日70.00ドルで推移した。

為替は、前週110.43~111.06円の範囲で推移した。7月12日112.18円、13日112.76円、17日112.44円、18日113.01円で推移した。

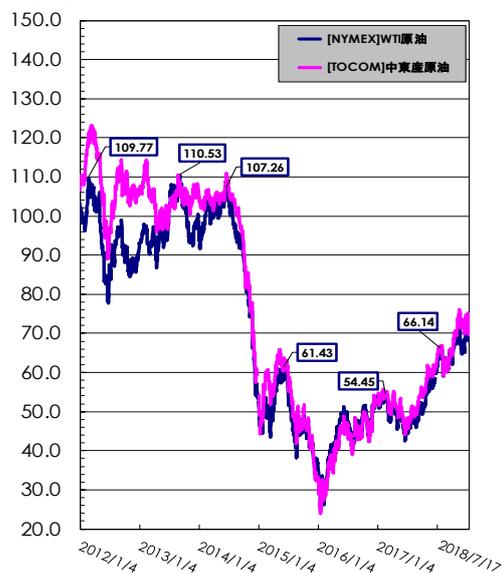
財務省が19日発表した貿易統計(速報・旬間ベース)によると、6月下旬の原油輸入平均CIF価格は、53,391円/klとなり、前旬を619円上回った。ドル建てでは77.05ドルで前旬比0.27ドル高。為替レートは1ドル/110.16円。また、同日発表した貿易統計(速報・月間ベース)によると、6月の原油輸入平均CIF価格は、52,731円/klとなり、前月を4,276円上回った。ドル建てでは76.34ドルで前月比5.73ドル高。為替レートは1ドル/109.81円。

主要元売会社の7月第4週に適用する卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、0.5~1.0円の値下げとなった。原油価格は値下がりがしたが、為替レートは円安がこれを相殺し、原油調達コストはわずかに値下がりがした。

そのような中で、7月17日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.3円の値上がり、軽油は同0.2円の値上がり、灯油は同4円(18%ベース)の値上がりだった。ガソリンは2週連続の値上がり、軽油も2週連続の値上がり、灯油も2週連続の値上がりだった(18%ベース)。この週(7月第3週)の原油コストはわずかに値上がりしたが、元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに全社据え置きとなった。

原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	7/8 ~ 7/14	3,332 ▲201	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	85.1 ▲5.1	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	7/14	13,118 ▲231	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	7/17	69.65 ▼-4.46	▲22.4
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	7/16	68.06 ▼-5.79	▲22.0
	原油CIF単価 (\$/bbl)	6月下旬	77.05 ▲0.27	▲24.92
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	53,391 ▲619	▲17,033
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	110.16 ▼-0.88	▲0.72
	外国為替TTSレート (¥/\$)	7/17	113.44 ▼-1.95	▼-0.01

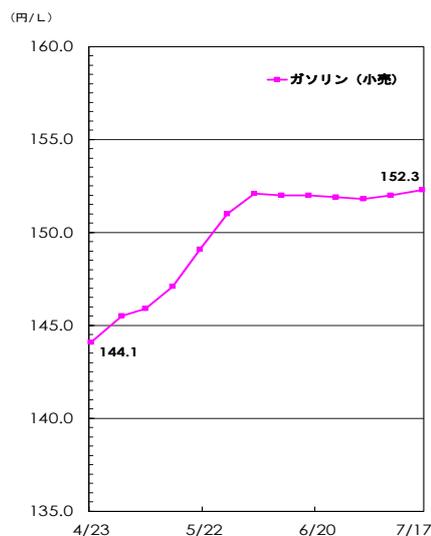
(\$/b)



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	7/8 ~ 7/14	963 ▲ 31	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	881 ▼ -149	▼ -	
	輸出	"	1 ▼ -52	▼ -	
	在庫	7/14	1,537 ▲ 81	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	7/10 ~ 7/16	68.2 ▼ -0.6	▲ 18.2	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	7/10 ~ 7/16	65.1 ▲ 0.1	▲ 15.1
		(TOCOM/中部)	7/13	65.1 ▼ -0.4	▲ 14.7
	小売 [週動向] (資工庁公表)	7/17	152.3 ▲ 0.3	▲ 21.4	

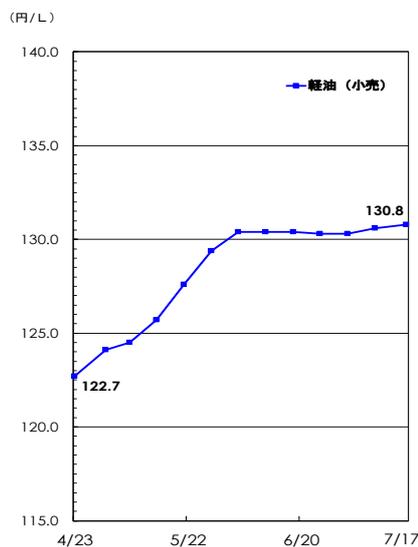
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

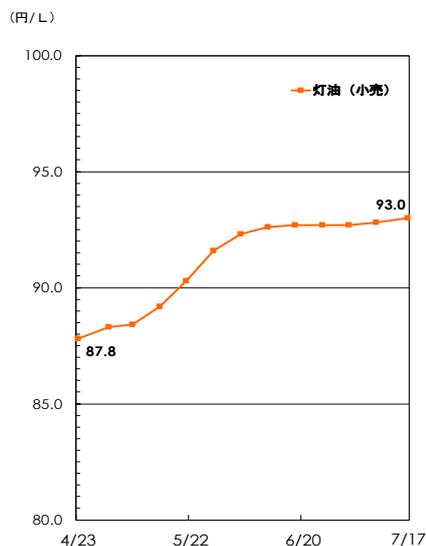
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	7/8 ~ 7/14	834 ▲ 125	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	569 ▼ -97	▼ -	
	輸出	"	223 ▲ 179	▲ -	
	在庫	7/14	1,455 ▲ 41	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	7/10 ~ 7/16	69.9 ▲ 0.1	▲ 21.7	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	7/10 ~ 7/16	71.0 ▲ 1.0	▲ 23.0
		(TOCOM/中部)	7/13	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	7/17	130.8 ▲ 0.2	▲ 20.8	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	7/8 ~ 7/14	122 ▲ 26	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	61 ▼ -62	▼ -	
	輸出	"	25 ▲ 25	▲ -	
	在庫	7/14	1,548 ▲ 36	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	7/10 ~ 7/16	69.2 ▲ 0.1	▲ 21.8	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	7/10 ~ 7/16	68.9 ▲ 0.2	▲ 20.7
		(TOCOM/中部)	7/13	68.2 ▲ 0.2	▲ 20.2
	小売 [週動向] (資工庁公表)	7/17	93.0 ▲ 0.2	▲ 16.8	



■ 関連情報

1 海外/原油

7月18日のNYMEX市場WTI原油は、米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で、国内原油在庫が前週比580万バレル増と市場予想(同360万バレル減)に反した積み増し、直近週の原油生産量も日量1100万バレル超えとなり、売りが先行したが、同週報でガソリン在庫が同320万バレル減と市場予想(同横ばい)、中間留分在庫も同40万バレル減と市場予想(同90万バレル増)に反した取り崩しになったこと、一部報道がサウジのリアド製油所への襲撃情報を伝えたことから、買戻しが進み続伸した8月限の終値は前日比0.68ドル高の68.76ドル、9月限の終値は前日比0.59ドル高の67.75ドルだった。

EIAによると、7月16日時点のガソリンの小売価格は、前週比0.8セント値上がりの1ガロン2.865ドル(86.0円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比0.4セント値下がりの3.239ドル(97.2円/ℓ)。ガソリンは3週連続の値上がり、ディーゼルは3週ぶりの値下がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、平成30年7月8日～7月14日に休止したトッパー能力は25.6万バレル/日で、前週に対して25.9万バレル/日減少した(全処理能力は351.9万バレル/日)。

原油処理量は333.2万klと、前週に比べ20.1万kl増加。前年に対しては12.9万klの減少。トッパー稼働率は85.1%と前週に対して5.1ポイントの増加、前年に対しては3.3ポイントの減少となった。

生産は前週に比べて全ての油種で増産となった。

ガソリン/3.4%増、ジェット/8.8%増、灯油/27.5%増、軽油/17.6%増、A重油/15.2%増、C重油/97.8%増。今週のC重油の輸入は2.7万kl(前週比1.1万kl減)。軽油の輸出は22.3万kl(前週比17.9万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比ではジェット、A重油、C重油が増加となり、その他の油種で減少となった。前年比ではジェット、C重油が増加となり、その他の油種で減少となった。

ガソリンの出荷は88.1万kl(対前週14.5%減)と前週比で2週振りに減少となり、2週振りで100万klを下回った。

ジェット11.3万kl(対前週5.6%増)、灯油6.1万kl(対前週50.5%減)、軽油56.9万kl(対前週14.5%減)、A重油19.5万kl(対前週0.9%増)、C重油25.9万kl(対前週43.8%増)。

(単位:千KL)

	今週 (7/8 ~ 7/14)	前週 (7/1 ~ 7/7)	前週比	
ガソリン	881	1,030	▼ -149	(-14%)
ジェット燃料	113	107	▲ 6	(6%)
灯油	61	123	▼ -62	(-50%)
軽油	569	666	▼ -97	(-15%)
A重油	195	193	▲ 2	(1%)
C重油	259	180	▲ 79	(44%)
合計	2,078	2,299	▼ -221	(-10%)

※今週出荷量=(前週末在庫+今週生産+今週輸入)-(今週輸出+今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

7月14日時点の在庫は、全ての油種で積み増しとなった。前年に対しては軽油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは153.7万kl、前週差8.1万kl増。前年に対しては19.1万kl少ない。

灯油は154.8万kl、前週差3.6万kl増。前年に対しては12.1万kl少ない。

軽油は145.5万kl、前週差4.1万kl増。前年に対しては1.1万kl多い。

A重油は72.8万kl、前週差0.2万kl増。前年に対しては7.4万kl少ない。

C重油は200.5万kl、前週差2.9万kl増。前年に対しては12.6万kl少ない。

(単位:千KL)

	今週 (7/14)	前週 (7/7)	前週比	
ガソリン	1,537	1,456	▲ 81	(6%)
ジェット燃料	1,111	1,036	▲ 75	(7%)
灯油	1,548	1,512	▲ 36	(2%)
軽油	1,455	1,414	▲ 41	(3%)
A重油	728	726	▲ 2	(0%)
C重油	2,005	1,976	▲ 29	(1%)
合計	8,384	8,120	▲ 264	(3.3%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

7月10日から7月16日の原油価格は前週対比で値下がりしたが、為替レートの円安がこれを相殺し、原油コストはわずかに値下がりしたと見られる。

陸上スポット価格は、7月10日から7月16日までの間、ガソリン121~122円台で値下がり、軽油69~70円台でわずかに値下がり、灯油69円台でやや値下がりして推移した。

海上スポット価格は、同期間でガソリン124~125円台で値下がり、軽油71円台で横ばい、灯油68~69円台で値下

がりし推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン118~119円台で値下がり、軽油71円台で横ばい、灯油68~69円台で値下がりして推移した。元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、0.5~1.0円の値下げに分かれた。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

製品スポット市況は、陸上と海上のガソリンを除き、他の取引はわずかに値上がりした。

7月第4週(7月19日~7月25日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(7月10日~7月16日千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは0.6円の値下がり、灯油は0.1円の値上がり、軽油も0.1円の値上りだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが0.3円の値下がり、灯油は0.6円の値上がり、軽油は0.3円の値上がりだった。先物価格は、ガソリンが0.1円の値上がり、灯油は0.2円の値上がり、軽油は1.0円の値上がりだった。原油価格は値下がりしたが、為替の円安がこれを相殺し、原油コストはわずかに値下がりした。

7月第4週の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、0.5~1.0円の値下げに分かれた。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM) (単位: 円/%)

[陸上ローリー4地区平均]	今週 (7/10 ~ 7/16)	前週 (7/3 ~ 7/9)	前週比
レギュラー	68.2	68.8	▼ -0.6
灯油	69.2	69.1	▲ 0.1
軽油	69.9	69.8	▲ 0.1

(TOCOM) (単位: 円/%)

[期近物/終値][平均]	今週 (7/10 ~ 7/16)	前週 (7/3 ~ 7/9)	前週比
レギュラー	65.1	65.0	▲ 0.1
灯油	68.9	68.7	▲ 0.2
軽油	71.0	70.0	▲ 1.0

※上記価格は税抜き価格

参考値 (7/10~7/16実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -0.6	▲ 0.1	▼ -0.2
灯油	▲ 0.1	▲ 0.2	▲ 0.2
軽油	▲ 0.1	▲ 1.0	▲ 0.6
A重油	→ 0.0		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上/バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

7月17日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.3円高の152.3円、軽油は同0.2円高の130.8円、灯油も同0.2円高の93.0円(18%ベースでは4円高の1,674円)だった。ガソリンは2週連続の値上がりで、8週連続150円を上回った。軽油も2週連続の値上がり、灯油も2週連続の値上がりだった。都道府県別に、ガソリンの値上がりは33都道府県、横ばい6県、値下がり8府県だった。横ばいは、高知県ほか5県だった。

全国最安値は徳島県の145.9円(同0.5円高)、次が埼玉県の148.2円(同0.8円高)、最高値は長崎県の161.4円(同0.7円高)だった。最も値上がりしたのは、1.4円高の宮城県(151.0円)、最も値下がりしたのは、0.8円安の沖縄県(157.4円)だった。

先週の原油コストは大きく値上がりし、元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに据え置きとなった。今週の原油価格は値下がりしたが、為替レートの円安がこれを相殺し、原油コストはわずかに値下がりした。次週(7月23日)のガソリンの小売価格は小幅な値上がりが見込まれる。

(単位: 円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (7/17)	前週 (7/9)	前週比	直近高値
レギュラー	152.3	152.0	▲ 0.3	08/8/4 185.1
灯油	93.0	92.8	▲ 0.2	08/8/11 132.1
軽油	130.8	130.6	▲ 0.2	08/8/4 167.4

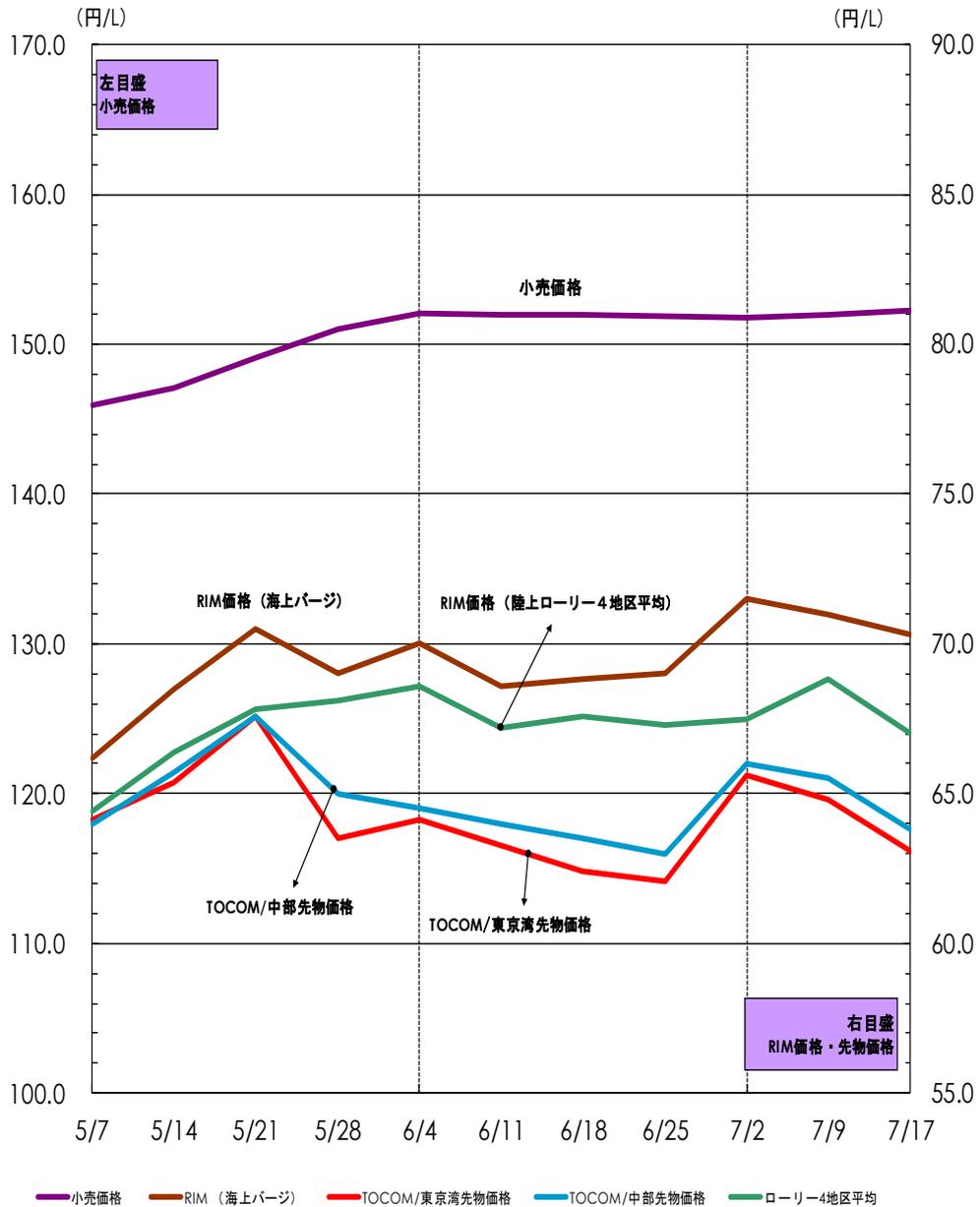
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2018/5/7 ~ 2018/7/17)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2018第16号)の公表は、7/27(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成29年9月末現在)は、12月13日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。